



お客様の目線で、ニーズに応えられる商品を！ 有限会社 田中金属

創業60年を超える田中金属さんは、最新3DCADを駆使し、医療機器や防災備蓄関連の筐体、測定機器類ケースなど高精度製品の板金設計・製造を行う会社です。
田中社長にものごづくりにかける想いをお聞きしました。

高校の同級生からの突然の依頼

「JKKの理事長である三和製作所の小林社長とは同級生なんです。その彼が、12年前のある日突然やって来て『AEDの収納ケースを安く作れないか？ニーズはあるけど既存の製品は高い！』って言うんで。そこからが大変！高品質で安価なものなんて簡単ではないですよ。彼とたった2

人で、通常の会社業務終わりの深夜から翌

日の朝方まで毎日毎日試行錯誤を続けました。当初は、設計する技術も十分でなく、ホントにやっこの思いで製品を作り上げたという形です。でも、その時培ったノウハウが基盤となって、今では設計の提案ができることが田中金属の強みになっていきます」

そこまで頑張ったわけは

「なによりも三和製作所がお客様の目線で第一で考えており、それを田中金属で作ってほしいという熱い想いが伝わってきたからだと思います。モノづくりのやりがいとはなんだろうと考えると、自分にとってはお客様のニーズを叶えることが一番の喜びなんです。お困りごとを解決するということが、そのままやりに繋がっていきます」

商品の値付けには工夫が必要

「商品の値段は材料費ではなく製作にかかる時間だと思えます。時間は工程数で変わるの、私たちは工程数をできるだけ減らす工夫をしています。例えば先ほどの「AED収納ケース」、苦労したかいがあってロングセラーとなっていますが、ここにも工夫があって、リベット打ちのものを加工せずあえて出すことで工程数を減らしました。これまで溶接などでラインが出ないように隠していたのですが、デザイン的に見ても隠す必要はないと判断しました。今でこそリベットが出てくる機構をよく見るようになりましたが、これを最初にしたの

は弊社じゃないかな？なんて思って、社会貢献できたような気になっています。」

新製品は、学校の授業をことん意識！

「いま三和さんと一緒に作っているのが、『タブレット保管庫』です。最大の特徴は、『授業をことん意識した作り』。実は他のメーカーさんからお声がけいただいたのですが、こちらはメーカー目線の商品依頼だったんです。でも三和の作りたい商品は子どもと先生の目線。仕切り板を金属から安全なプラスチックに変えたり、前後どちらからも開く扉にすることで授業開始時や終了時の保管庫まわりの混雑を避ける仕組みにしたり、そういう使う人のニーズに応えられることが作り手としては嬉しいことなんです」

最後に学校現場に対して一言、とお願いしたところ「子ども達の成長に繋がり、教育に役立つのであれば何でもやりたいです。どこよりもスピーディに動きますよ！」と力強くおっしゃいました。モノづくりに対する真摯な想いが伝わる熱いインタビューとなりました。



①○○○○○○○○○①○○○○○○○○○②○○○○○○○○○③○○○○○○○○○
④○○○○○○○○○⑤○○○○○○○○○⑥②○○○○○○○○○⑦○○○○○○○○○
○○○⑧○○○○○○○○○⑨③○○○○○○○○○■○○○○○○○○○⑩○○○○○○○○○
○○○○○⑪○○○○○○○○○⑫○○○○○○○○○⑬(140~150文字)



○○○○○○○○○①○○○○○○○○○
①キャプション38文字以内